

このバラの物語を聞いてください。

希望のバラ「ICAN」～～核兵器のない世界へ～～

2017年に核兵器禁止条約が国連で採択され、これに貢献したICA(核兵器廃絶国際キャンペーン； International Campaign to Abolish Nuclear Weapons)がノーベル平和賞を受賞しました。このことに心を動かされた広島市の被爆者でバラの育種家である田頭数蔵さんが、新種のバラを作り「ICAN（アイキャン）」と名付けました。



2020年5月 恵泉で開花したICAN

田頭さんのバラ「ICAN」

田頭数蔵さんは、78年前の8月6日の夕方、広島市内に落とされた原子爆弾の爆心地に入り、多くの人々が重傷を負う中を通過して自宅に帰りました。その時、傷ついた人々から助けを求められたことが忘れられないと田頭さんは言われます。弟さんを被爆により亡くされ、その体験を最近まで、ご家族を含めほとんど人には話すことができなかったそうです。戦後、田頭さんは独学でバラの育種家となりバラ園を営んでこられました。

今から5年前、2017年にICANのノーベル平和賞受賞を知った田頭さんは、「世界中の戦争体験を持たない若い世代の人々が、被爆者と同じ思いで核兵器をなくそうと努力していること」に深い感銘を受け、新作のバラを「ICAN」と名付けました。淡いピンクで次々を房咲きする、香りのよいこのバラは、世界の人々が集まって、平和のために協力する姿を象徴しているかのようです。

核のない平和な世界を願って

恵泉女学園大学で非常勤講師を務める川崎哲（かわさき あきら）先生は、ICANの国際委員のメンバーで、ピースボートの代表でもあります。田頭さんから「ICAN」のバラ苗の寄贈を受けられたピースボートは、苗の育苗を恵泉に託してくださいました。

川崎先生はこれに先立ち、広島の田頭さんのバラ園を訪ね、苗木づくりを見学され、バラづくりがいかに繊細で忍耐を要するものかを学ばれたそうです。

恵泉女学園大学と多摩市に贈呈されたバラの苗



2020年2月 バラ苗の贈呈式（多摩市役所にて）左から、大日向雅美学長、阿部裕行多摩市長、ピースポートの野口香澄さん

恵泉女学園では、創立の頃から園芸を学びの一つにおき、人間形成の土台として教育のなかに取り入れてきました。川崎先生を通じて田頭さんの息子さんが営むバラ園から届けられたICANバラの苗は、恵泉と多摩市で、すくすくと育てられてきました。多摩市もまた、非核宣言都市として核兵器廃絶を訴えている自治体の一つです。

多摩市の中学校に贈呈

2021年に市制施行50周年を迎えた多摩市は、これを記念し、平和な世界が100年後にも続くようにとの願いを込めて、市内の9つの中学校に、多摩市グリーンライブセンターで育ててきた苗を一鉢ずつ贈呈しました。

贈呈式では、女優のサヘル・ローズさんと川崎先生が招かれ中学生たちと交流し、対談をされました。自らも難民として来日したサヘルさんは、「戦争のない世界」をめざして積極的に発言し、難民や児童養護施設の子どもの支援にも取り組んでいます。平和の大切さや子ども達への思いを語るサヘルさんは、高校で園芸を学んだロザリアンでもあり、自宅で育てているバラ園にも「ICAN」が贈呈されました。

世田谷キャンパスでも咲いています。

バラはまた、園芸がカリキュラムに取り入れられている、世田谷キャンパスの恵泉女学園中学・高等学校の校庭でも

花開いています。



核廃絶への思いを重ね、咲き続けるバラに平和への願いを
つなげ、世界中でこのバラが花開く未来を描いていきましょう。

「ICAN」はオーガニックのバラ園、Keisen Wild Rose Garden や
ハーブガーデンにも植えられています。ぜひ足を運んでみてください。

サヘル・ローズさん 多摩市立グリーンライブセンター訪問 (2021年)

バックヤードでスタッフから説明を聞くサヘルさんと川崎哲先生





川崎先生とピースポート広報用動画撮影

「平和への思い、子供たちへの思い」を語るサヘルさん

「故郷のイランは
バラを国花にしています。」



青森の親のサヘルさんとGLCの花園にて

「このバラを大切に育てます」



記念撮影